

れんけい

第40号

令和2年12月
発行

地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター
Gifu Prefectural General Medical Center
地域医療連携部



泌尿器科の最近の動向

岐阜県総合医療センター 主任部長・泌尿器科部長 高橋 義人

Covid-19感染症の動向から目がはなせない日々が続いています。感染者数は減少していません。日本より気温の低い欧州の状況を見ると今後のCovid-19の情勢には十分な配慮が必要です。Covid-19関連の情報があふれる現状ですが、今月は泌尿器科についてご紹介させていただきます。腎、膀胱、前立腺、精巣、副腎の良性腫瘍、悪性腫瘍、尿路結石症、排尿障害、尿路感染症に対して泌尿器科専門医4名と専攻医3名で診療に携わっています。小児泌尿科疾患につきましては当院小児外科で診療を行っております。泌尿器科専門医の資格以外に、泌尿器腹腔鏡手術認定医(4名)ロボット手術プロクター(2名)がん薬物療法専門医(1名)がん治療認定医(4名)抗菌化学療法認定医(1名)ICD(2名)の資格を有している医師が勤務しています。院内のさまざまな部門と協調して診断、検査処置、手術療法、薬物療法を行っています。放射線治療科と連携して放射線治療も行っています。泌尿器科手術療法について少し詳しくご紹介させていただきます。2006年からは泌尿器腹腔鏡手術を積極的に施行してきました。当初は腎・副腎を治療対象としていましたが、チームとしての技

量の習熟が確認でき前立腺、膀胱に拡大してきました。2013年に内視鏡手術支援機器(手術用ロボット)を導入して以来泌尿器腹腔鏡手術施行例は急激に増加しています。また、尿道から内視鏡を挿入して尿路疾患の治療を行う泌尿器内視鏡手術も、内視鏡の細径化、解像度の向上で細く屈曲した尿路に内視鏡を到達させることが可能となってきました。レーザー機器の導入、新規開発の光学機器の導入、専用カテーテルなど手術補助機器の開発で治療効果が劇的に向上しています。2018年以降年間800例以上施行している泌尿器科の手術の98%は開腹しない手術となりました。30年前には尿路結石症治療の最先端であった体外衝撃波結石破碎術も激減し、当院では2020年8月で体外衝撃波結石破碎術の治療を終了しました。今後も内視鏡手術支援機器(手術用ロボット)を駆使した泌尿器腹腔鏡手術と最先端の内視鏡機器を取り揃えた泌尿器内視鏡手術で泌尿器科診療の向上を目指して努力してまいります。登録医の先生方をはじめ各医療機関の皆様からのご紹介、そしてご支援ご協力をお願いいたします。

連携医の紹介

村上医院耳鼻咽喉科

院長 村上 力夫

当院について

当院は平成4年より各務原市蘇原東門町に開院し、地域医療を行ってまいりました。耳鼻咽喉科疾患はもちろんのこと、特に滲出性中耳炎、癒着性中耳炎、真珠腫性中耳炎などの中耳炎について精力的に取り組んでおります。滲出性中耳炎は小児のみならず、高齢者にも好発する疾患です。当院では開院当初より硬性鏡による鼓膜の詳細な診察を行い、治療に結びつけています。



聴覚検査、特にDPOAE検査(現在、各務原市の3歳児健診、1年生耳鼻科検診で施行)で要精査になった児童の保護者には、検査、診察し、科学的にその根拠と対応策を説明しています。



加圧減圧室

また、当院では加圧減圧室(日本の耳鼻咽喉科では、唯一の調圧能を調べる検査室)を導入し中耳調圧能検査に使用しております。飛行機搭乗、高地への移動、トンネル通過の際に耳痛、耳が詰まった感じが取れない方にこれらの検査で診断し、対策、対応をしております。

真珠腫性中耳炎、鼻骨骨折や慢性副鼻腔炎、頸部疾患についてはCTを用いて検査も可能です。

睡眠時無呼吸症候群の診断とCPAP治療を行っています。

発熱外来について

最近の新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当院も岐阜県発熱外来診療・検査医療機関の指定を受けました。以前より通常の診察室とは別に発熱外来を設置しており(入り口も別々です)、発熱のない患者様も安心して受診していただけます。



発熱外来用の診察室



発熱患者の点滴に使用しているベッド

病診連携について

日頃より全身麻酔が必要な小児の長期鼓膜チューブの留置や、喉頭浮腫などの緊急疾患、頭頸部癌患者様のご紹介など病診連携させていただいており、大変感謝申し上げます。

名称：村上医院耳鼻咽喉科

医師：村上力夫 村上真美 村上一晃

土曜日医師：佐藤栄祐(中部労災病院耳鼻咽喉科部長) 平松優美子(名古屋第一日赤病院)

診療内容：耳鼻咽喉科・小児科

検査・医療機器：鼓膜観察システム(ストルツ)、各種硬性鏡、電子ファイバー、中耳調圧能検査(加圧減圧室)、手術用顕微鏡(カールツァイス)、CT、自動血球計算装置、高感度検査デンシトメトリー分析装置、レーザー装置(鼓膜切開開窓用、鼻腔粘膜焼灼用) Lumenis AcuPulse

診療時間：

外来診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9時~12時30分	○	○	○	○	○	○	×
14時30分~18時	○	△	○	○	○	×	×

祝日は休診

月曜日が休日の際、翌火曜日の午後診療はあります

住所：504-0803 各務原市蘇原東門町2-78

ホームページ：<https://murakami-jibika.com>

電話：058-371-7650

駐車場：60台

診療科の紹介

胎児診療科がお答えします

胎児診療科部長
高橋 雄一郎

今回は胎児診療科の紹介と、問い合わせが多い質問を高橋部長に答えていただきました。

胎児診療科と掲げている理由

現在は、胎児診療科・産科という名称となっています。

一般レベルでの産婦人科診療としての産科医療は行うのですが、特に胎児の形態学的診断、循環動態の評価、さらには最重症例には救命目的での胎児治療を行うという先進的な医療を行なっています。この領域は、長良医療センター産科の流れをくむ専門家チームが2019年に当院に移動をしたことから実現いたしました。そういう意味で、この科名には長良医療センター産科時代からの“soul”を込めた命名をさせていただいております。もちろん最近では基礎産科学の研究も盛んに行なっており、胎児、妊婦さんに関係する全ての領域で高みを目指して日々進歩を目指しております。



高橋部長

胎児ドック は初期は11～14週ごろ、中期は18～20週ごろ、後期は28～30週ごろをお薦めしています。もちろん、どの週数でもドックは受けられますが、その週数の特性に合わせて得られる所見の結果も異なります。費用はホームページ(URL;<https://www.gifu-hp.jp/fetusDepartment/#point20>)をご参照ください。

時間は15分前後かかりますが、その妊婦さんの見やすさなどの状況によります。

羊水検査 は胎児の染色体を調べる確定検査で、通常の臨床検査ではなく、遺伝情報に関する特殊検査となります。母体の血液などで調べて疑わしい場合や、胎児になんらかの所見がある場合に施行します。検査は通常妊娠16～17週で行い、前後の準備で一時間ほどはかかります。

費用など詳細はホームページ(URL;<https://www.gifu-hp.jp/fetusDepartment/#point20>)をご参照ください。また、検査そのものの予約はお電話では受け付けておりません。必ず、ご主人と受診いただき、羊水検査のカウンセリングを受けていただき、十分ご理解いただいた場合のみ行います。また結果も必ずご主人と同席のもとお伝えすることにしています。

典型的な流れはこのようになっています。

胎児ドック
(お一人でも可能)羊水検査カウンセリング
(ご夫婦で必ず)羊水検査当日
(お一人でも可能)結果をきく
(ご夫婦で必ず)

新型コロナ流行に伴う対応について

胎児ドック、羊水検査も新型コロナ感染の可能性がある場合には県内、県外でもお受けしておりません。受診希望がある場合には一定期間の健康観察表の記入の上で(https://www.gifu-hp.jp/COVID-19_pregnancy/)、まずは外来初診の予約をお願いします。



胎児診療科メンバー

Topics

新規更新MR装置

診療放射線技師
田村 拓也

当院は令和2年6月に最新鋭の1.5T(テスラ)MR装置 MAGNETOM Sola(シーメンス社製)を導入しました。まずこの装置は本体の筒状部分の開口径が大きくなり、長さも短くなったことでより開放的な環境で検査を受けられるようになりました。これにより狭い空間が苦手な方の検査中の不安感や圧迫感を軽減することができ、また上肢の挙上やうつ伏せなど被検者の負担になる体位を強いることが少なくなりました。さらにMR検査の特徴である騒音に対する静音技術「Quiet Suite」を備えています。これは70%~90%以上のノイズリダクションを可能にする技術機構であり、被検者の心理的負担を軽減するとともに小児の方など鎮静下で行う検査の覚醒による検査中止のリスクをこの静音技術により低減することができます。

検査内容に関しても多様な器具(コイル)や技術を搭載し、頭部、胸部、腹部、関節など全身あらゆる部分の検査を可能にしています。それぞれの部位に特化したコイルを使用することで詳細な情報を得ることができ正確な診断に役立てています。またこの装置では検査寝台内蔵のコイルにセンサーが搭載され、被検者が寝台に寝るだけで呼吸による臓器の動きを認識します。これにより腹部など本来呼



吸の影響がある部位では呼吸を止めなければ良質な画像を提供できませんでしたが、この装置では自由呼吸下で呼吸を止めた場合と同等の画像が望め診断の向上に寄与できるようになりました。MR検査は検査時間が長いことが短所ですがそれを改善すべく検査時間短縮技術も豊富に備えており、それらを検査ごとに最適に組み合わせることにより従来よりも検査時間の短縮をしつつ良質な画像を提供できます。

患者さんにとって負担が少なく質の高い検査を実現できるようにスタッフ一同頑張りますのでよろしくをお願いします。



①弁膜症の有病率は高く、心不全の原因の一つとされます。診断、治療の進歩に伴い、弁膜症患者を集約し、専門的な判断を正確かつ迅速に行うために、2020年4月より弁膜症外来(毎週金曜日午前:矢ヶ崎裕人担当)を開設しました。心雑音、息切れの方、最新の低侵襲のカテーテル治療(MitraClip、TAVIなど)について知りたい方などご紹介ください。

MitraClipは僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療で、大腿静脈から心臓内へカテーテルを挿入し、クリップ(縦径約15~20mm、横径約5mm)を用い、逆流のある僧帽弁をクリップでつまむことで、逆流を軽減します。薬物療法でも心不全症状が残存し、中等度-重度以上の僧帽弁閉鎖不全症を認める方が対象となります。2018年4月に本邦に導入され、当院では2019年5月県内で初の施設として開始し、現在67例の経験を有し、東海・北陸エリアでトップクラス、全国でも屈指の症例数を経験しております。

②大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療(TAVI)は2014年3月に東海地方で2番目、県内で初の施設として開始し、現在237例の経験があります。導入当初は外科手術のリスクの高い方のみが対象でしたが、TAVIの治療の進歩により、合併症のリスクが軽減されたこと、また手術リスクの低い方も治療成績がよい報告があり、昨今では手術リスクによらず適応があると考えられています。入院期間は4~6日程度で、退院後も早期に元の生活に戻っていただくことが可能です。大動脈弁狭窄症の方については、TAVI外来(毎週月曜日午前:渡邊亮太担当)にご紹介ください(弁膜症外来にご紹介いただいても構いません)。

③救急外来は多数の医師で診療を行っているため、代表の電話番号(058-246-1111)にお電話をいただいても、直接循環器の医師と繋がらない場合もあります。循環器疾患に迅速に対応するために、循環器の医師が24時間電話対応する、循環器ホットライン(058-249-0699)を4年前より運用しております。改めて認知いただき、循環器疾患についてご相談いただけたらと思います。

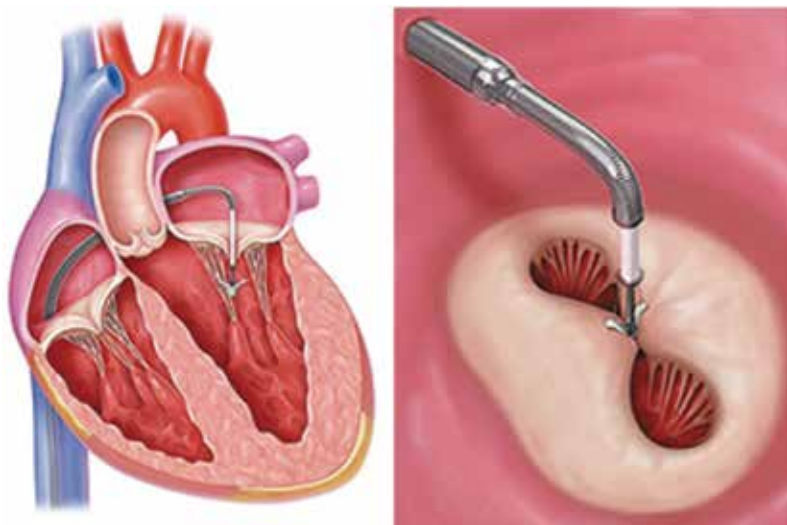


図1: MitraClipの図(提供:アボットメディカルジャパン合同会社(株))

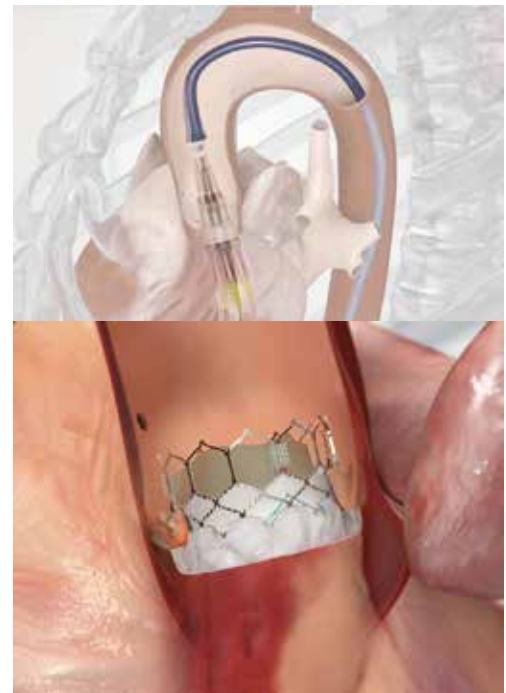


図2: TAVIの図(提供:エドワーズライフサイエンス(株))

循環器直通PHS

循環器救急センター
ホットライン

●携帯電話からでもOK!

(058) 249-0699

(24時間受付対応)

脳卒中診療科の紹介を致します。

総合医療センター(旧 県立岐阜病院)の脳卒中診療は、1979年4月に脳神経外科が開設以来、脳神経外科が担ってきました。2008年、救命救急センター内部に脳卒中センターが発足しました。脳神経外科、脳神経内科、循環器内科医師により構成され、以後、**365日脳卒中当番医が自宅待機**として救急患者様の対応にあたっていました。

2018年12月に国会にて脳卒中・循環器病対策基本法が成立し、当院は一次脳卒中センターを承認されております。スタッフも医師以外に看護師、リハビリスタッフ、メディカルソーシャルワーカー(MSW)が加わり、定期的にカンファレンスをしております。

今回、2020年7月に脳卒中センターを脳卒中診療科と改名し、2020年9月から、**脳卒中当番医が、365日院内で待機**することと致しました。医師の構成も、脳神経外科、脳神経内科、救急科の医師に変更され、脳梗塞など超早期の対応を可能にすることを目的としております。

脳卒中は、死亡率こそ低下したものの、発症率は、現在も非常に多く国民病ともいわれています。問題点は、後遺症により介護が必要になることが多い疾患群であることです。

助けうる脳組織を少しでも多く助けて後遺症を少なくするため、脳梗塞患者様の中には、tPA療法、血栓回収療法の適応がある場合に、早々に対応しております。

また、循環器内科とも併診とし、特に最近話題になっている**卵円孔閉鎖の必要がある患者様に対しては、**

施設基準を申請中です。心原性脳塞栓症も多く、二次予防の内服薬の決定のためには循環器内科との連携は必須です。

当地域は、回復期リハビリテーション機能を持った病院も多く、地域の連携も進んでおります。**患者様の対応は、これまで通り救急で対応**させていただきますので、これまで以上、宜しく願い申し上げます。



新任部長の挨拶・抱負



心血管カテーテル治療科部長
岩間 眞

日本循環器学会専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医、専門医、施設代表医
日本内科学会総合内科専門医
浅大腿動脈ステントグラフト実施医

令和2年5月より心血管カテーテル治療科部長を拝命いたしました。私は虚血性心疾患を中心に、循環器疾患の診療に従事してきました。虚血性心疾患に対するカテーテル治療の進歩は目覚ましく、多くの症例で良好な成績を得る事ができるようになりました。しかし、複雑病変ではその限りではなく、そのような病変に対しては、特殊カテーテルであるローターブレード、エキシマレーザー、DCA(方向性冠動脈粥腫切除術)などを使用し、安全で質の高い医療を

目指しております。また、当科では末梢血管疾患、大血管疾患、弁膜症疾患の分野でもカテーテル治療を行っており、心臓血管外科の先生方とも協力をして診療を行っています。早期診断、予防も重要で、地域の先生方との連携を大切にして診療を行っていきたくと考えております。最善の医療を提供できるよう、スタッフ全員で努めて参りますので、ご指導を頂きますようお願いいたします。

看護部紹介

看護部では、地域の皆様からの情報を退院支援に活かしています。

訪問看護師の方々から送られる「在宅療養報告書」により、患者さんの退院後の様子を知らせて頂いており、病棟の看護に活かしています。

病棟では、訪問看護ステーションの方々から在宅療養報告書を頂くと、毎回、ケースカンファレンスを行い、看護師間で療養内容を共有しています。

病院で患者さんの意思決定を支援していますので在宅療養報告書の中から、患者さんが在宅で望まれていた生活ができているのかを知ることができ、看護を振り返る機会になっています。また、訪問看護師さんによる看護の継続状況や在宅で工夫されたケアを知ることで看護の評価にも使用しています。

患者さんやご家族の思いが記載されているときは、特に受け持ち看護師にとっての励みになっています。これからも地域の皆様から頂いた情報を病棟で共有しながら次の退院支援に活かしていきます。



在宅療養報告書を用いたケースカンファレンス

在宅療養報告書		担当者様
訪問看護ステーション	月 日	退院されました ID 様の退院後の様子について
お知らせください。記入可能な範囲で結構です。よろしくお願いたします。		
訪問看護ステーション名		【 】
記入日	月 日	ご記入者名 様
患者さんの様子	体調・生活など	
	気持ち	帰ってきて良かったと思ふこと 心配事 病院のケアに対してなど
家族の様子	協力・生活など	
	気持ち	帰ってきて良かったと思ふこと 心配事 病院のケアに対してなど
退院時期について		悪い・良い・違い 理由()
病院からの退院支援について	退院前後同行訪問	情報共有・検討できたこと 不足だったことなど
	合同カンファレンス 本部署・他部署の 職員様も参加	
	看護サマリー	記載してほしいことなど
	必要な医療的ケアの継続について	
その他		

ご協力ありがとうございました。 FAX先 058-249-0512
岐阜県総合医療センター 総合サポートセンター宛

「がん医療」は岐阜県総合医療センターの重点医療の1つであり、当センターは2008年以來、地域がん診療連携拠点病院に指定されています。がん医療センターは、がん拠点病院に求められる様々な機能を整備し、実践していくために、横断的に活動している部署です。緩和ケアセンター、化学療法部、がん相談支援センター、がん登録室から構成され、カンサーボード、がん患者サロンの運営も行っています。



がん医療センター関係者



緩和ケアチーム回診



がん相談



がんほっとサロン

緩和ケアセンターでは、「診断された時からの緩和ケア」を掲げて、「生活のしやすさ質問票」を用いて、患者さんのスクリーニングを行い、緩和ケアチームによる回診、カンファランス、緩和ケア外来、看護外来を通じて、がん患者さんのあらゆる苦痛を緩和し、適切な医療を受けられるようにサポートしています。

化学療法部では、外来化学療法センターを中心に、ますます需要が増し、高度化している化学療法を、安全にしかも快適に行えるような体制を整えています。2019年度の外来化学療法件数は5698件でした。

がん相談支援センターでは病気の治療法、治療後の生活、就労、医療費のことなど、がん患者さんの様々な疑問、悩みを解消するために、相談窓口を設けて、専門相談員が対応しています。がん患者サロン「ほっとサロン」は今秋から玄関ホール内のとても便利な場所に移転しました。ピアサポーターが毎日10:00から15:00まで在室しており、お茶を飲みながらゆったりと歓談でき、「ほっとできる」環境を提供しています。がん登録室では、3人の専門スタッフが、精密ながん登録を行い、解析したデータを診療や経営に役立てています。2019年の登録件数は2106件でした。

また、定期的に緩和ケア研修会、がんに関する講演会、患者セミナー、病診連携カンファランスを開催し、医療スタッフの知識の向上、顔の見える医療連携の強化に努めています。

これからも患者さんに寄り添った医療を進めていきますので、変わらぬご支援、ご協力をお願いします。

編集後記

今回で広報誌「れんけい」は第40号を迎えることができました。地域の医療機関の皆様へ感謝申し上げますとともに、この広報誌が少しでもお役に立てれば幸いです。

今後も地域の医療機関の皆様との連携を深め、地域医療の発展に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

地域医療連携部 渡邊



地方独立行政法人
岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号

地域医療連携センター直通 TEL(058)249-0017

FAX(058)248-9334

発行/岐阜県総合医療センター 地域医療連携部